

長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 佳作

税金で楽器を吹く人

長岡市立刈谷田中学校

三年 佐藤 悠太

タイトルだけ見ると、もしかしたら税金を使って遊んでいる犯罪者のように見えるかもしれない。しかし、このタイトルに当てはまる人は私：もとい公立学校の吹奏楽部に入っている人はだいたいタイトルのような人である。

そもそも私は元吹奏楽部員であり、公立の中学校に通って、学校のチューバという楽器を吹いていたのだ。公立の学校の資金は税金なため、私は税金で楽器を吹いていたというわけだ。

しかし、部活も引退して、一つふと思ったことがある。それは、「なぜ国や県、市は『税収が足りない』と言っておきながら楽器に税金を使っているのだろうか――」

しかしこの間このことを考えていたら、ふと一つのことを思いついた。

「市などは税金を部活に使っていて、部活は学生にいい影響を与えるから、市などは税金を楽器に使っているのではないか？」

部活の影響について調べてみると、部活動は友人や仲間を得たり、他人の意見を理解する力をつけることができるらしい。私もそうだったような気がする。また、部活の顧問の先生もこんなことをおっしゃっていた。

「部活ほど人生で一生懸命努力するものはないから全力でやろう！」

確かに中学で一番頑張ったのは部活であり、今現在では一番の思い出も部活だ。

このことから市などが楽器にお金を出す理由は、学生に部活を通して友達と心をつなぎ、思い出をつくり上げる体験をさせることでこれからの日本を担う人材をつくり出そうとしているからなのではと思った。

このことに気付いてから、自分の税に対する見方が変わったと思う。

「なんだか難しく、しかも増えていくヤツ」というネガティブなとらえ方から、

「市などの人々が私たちのためにしてくれている未来のための投資」とポジティブなとらえ方になった。

自分も大人になったら税金を納めることになるだろう。だが、税金も未来のためと考えると、しっかり納めるようにしたい。脱税は絶対にしないと誓おう。また、できれば子どもや未来のために税金を使うような指導者に投票で票を入れたい。

税金というバトンで、次の世代の子どもに思い出を届けよう！